

わいふ一番館だより

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎ 0968 (24) 6630

【ギャラリー】 吊るしびな展示会 吊るしびな愛好会

期 間 ～3月13日(日)
楽しいひなまつりの行事に、吊るしびなを添えました。
女の子の健やかな成長と幸せの願いを込めた作品です。

絵手紙教室の一年間の歩み 夢美会

期 間 3月15日(火)～4月3日(日)
四季折々の草花や果物を描いて、絵手紙を送り続けています。展示する絵手紙はそれぞれ交流したものです。ぜひお越しください。

【まちかど資料館企画展】

菊池十八外城展

期 間 ～3月27日(日)
菊池十八外城は四方に城塞を配置して連携をなし、守備を固めました。この企画では時代の動きと外城の役割をご紹介します。
開館時間 午前9時～午後5時
※休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）



タケノコ堀体験



昔ながらの手植え作業

「菊池おいしい村づくり」に親子で参加しませんか。
開催期間 4～12月 毎月1回
参加対象 小学1年生以上の子どもとその保護者
参加費 日帰り 1人1500円
宿泊 1人2500円
詳しくはお問い合わせください。

菊池夢美術館情報

問い合わせ先 菊池夢美術館 ☎ 0968 (23) 1155

第13回 菊池わいふのひなまつり

期 間 ～3月13日(日)
古い時代から代々受け継がれたひな人形を展示します。
期間中はストーンペイントや着付け体験、折り紙教室、紙芝居などの催しがあります。



陶器・ハーブ染・フラワーアレンジメント ・古布リメイク・編物 五人展

期 間 3月17日(木)～24日(木) ※最終日午後5時まで
手作り作品展示即売会を行います。

二流の人 5人展

期 間 3月26日(土)～31日(木) ※最終日午後5時まで
竹工芸・イラスト・パッチワーク・能面・書などを展示します。一流であろうとしてそれぞれの仕事に打ち込み、命を燃やしている人の作品展です。販売もあります。
開館時間 午前9時～午後6時
※期間中の閉館日はありません。

釜山から車で3時間弱の場所に位置する安東市豊川にある河回村は、朝鮮時代当時の面影を残す韓国随一の重要な村である。河回村の特徴は600年前から豊山の柳氏一族が代々暮らしてきた村だが、柳一族といえば韓国スターのリュ・シウォン氏を思い出す人も多いだろう。

まさにここが彼の故郷である。彼の先祖は朝鮮時代の大儒学者柳成龍で、文祿・慶長の役の時には領議政（時の総理大臣）だった。今でも村民の6割以上が豊山の柳一族である。

河回村は両班（韓国式貴族階級）の家屋がきれいに保存され、一部は今も居住していて歴史的な価値が高い。こうしたことが評価され2010年7月31日ブラジルで開かれたユネスコ世界遺産委員会（WHC）会議で世界文化遺産に登録された。

河回村にはさまざまなお宝がある。一つは1797年に建て始められた「北村宅」で、村の北側に位置し99間家とも呼ばれる。（1間とは柱と柱の距離）

大広間や奥、別堂、祠堂、大門間棟など広く取りそろえた典型的な士大夫（貴族）家屋で河回村最大の家屋である。この北村宅には07年にノ・ムヒョン前大統領が、翌年には俳優のベ・ヨンジュン氏が泊まった。

その他にも韓国最古といわれている木造建築「極楽殿」があり、99年にエリザベス女王が自身の誕生日に訪問したことで一躍脚光を浴びた。

また、河回村は高倉健さん主演の映画「ほたる」の撮影に使われたロケ地でもある。高倉さんは特攻隊の生き残りとして死んだ同僚の遺品を韓国の遺族に届けるという話の中で、その韓国の遺族と対面する場所にリュ・シウォン氏の実家の外門周辺が使われた。監督は記者会見でこの河回村を選んだ理由を「韓国の田舎の雰囲気のある場所を探していたところ、河回村が一番そのイメージにふさわしかった」と語った。

温故知新と言ふ言葉のように、エリザベス女王も感嘆した安東河回村は古い韓国の伝統文化を体験できる場所だろう。

ふるさと緑の便り 菊池グリーンツーリズム

問い合わせ先
きくちふるさと水源交流館
☎ 0968 (27) 0102

親子参加の農業・自然体験 「菊池おいしい村づくり」

グリーンツーリズム推進施設のきくちふるさと水源交流館では、親子で参加できる月1回の農業・自然体験の取り組み「菊池おいしい村づくり」を行っています。

地元のおじいちゃん、おばあちゃんと交流を楽しみながら、四季折々の農作業や農村の生活を体験します。菊池の里山には宝物がいっぱい。日常の暮らしを離れ、農業や食を通じ、子どもたちが仲間と共に豊かな感性を得てもらうことを目的としています。

韓国発見シリーズ(48) こんごちは金です



認定番号第ふるさと H27- 1号
推薦者 福本一区



認定番号第ふるさと H27- 2号
推薦者 福本一区

福本八幡宮は泗水町福本にあり、創立は嘉元2年（1304年）、玉名郡千田庄の聖母八幡宮から勧請されました。社格は郷社であり、区民はもとより古くは皇室はじめ県下豪族から崇敬された格式ある八幡宮です。

明応2年（1493年）再建され、神事は秋の例大祭に、元旦祭、賀の祝い、茅の輪くぐり、七五三が毎年行われています。特に秋の例大祭には「獅子舞・花笠踊り」が区民を挙げて盛大に奉納されています。

お宮の清掃や祭事の準備などは、日頃から各組が輪番制で行っており、区民全体で大切に守られています。

「獅子舞と花笠踊り」は、福本八幡宮の例大祭時に氏子が奉納する伝統芸能です。

秋の例大祭（10月18日）では、獅子舞（赤獅子、青獅子）の後に、踊り子たちが「剣舞」「花笠踊り」を踊りながら境内を回り、五穀豊穡・生活安全を祈願します。

福本の獅子舞は、一つの獅子に二人が入って舞うもので、牝獅子は赤、雄獅子は青で、神社の周りを右回りに3周回りながら舞納めます。

福本の獅子舞は、「肥後国誌」によると享保の初め（1716年）以前から行われていたとのこと。

福本八幡宮

獅子舞と花笠踊り

シリーズ菊池遺産

(65)

問い合わせ先 企画振興課
☎ 0968 (25) 7250

人権・同和教育シリーズ(126)

問い合わせ先 人権啓発課
☎ 0968 (25) 7209

平成27年度菊池市人権フェスティバル出品作品

【詩の部 特選】 二人じゃないから」

泗水東小6年 浅井さくら

私は一人じゃない
一人じゃないから私の笑顔がある
一人じゃないからみんなと思いきり泣ける
一人じゃないからくやしいことだってある
一人じゃないからいじわるだってしたことがある
一人じゃないから笑い合える
一人じゃないから学校が楽しい
一人じゃないから私という存在がある

私はみんなと一緒にいるから毎日
が楽しい
「一本」
七城中3年 福本亜未

「辛」と「幸」形は似ていても、意味は正反対
「辛」に一本たせば、「幸」になる
その線一本あるかないかで、誰かを苦しめているとしたら
あなたのその一言に相手を感じる気持ちがあるかないか
つまり、あなたの小さな心遣いで人を傷つけているかもしれないし
幸せにしているかもしれない

【標語の部 入選】

「手をつなぐ」

みんなのこころ
ほかほかだ」

菊池北小2年 やまもとまお

「声かける」

あなたの勇気で
笑顔出る」

泗水西小4年 松岡瞳

「ごめんね」

なかなかありへの
あいことば」

旭志小4年 岩根涼河

「はつきりと」

だい事なこと葉
つたえよう」

戸崎小3年 齋藤圓

「だいじょうぶ」

一人じゃないよ
みんないる」

七城中3年 長埴明奈



【ポストカードの部 特選】
菊之池小5年 富岡志帆